

エナメルコンディショナーを応用したS-PRG含有シーラントの臨床予後に関する評価

著者	渡辺 孝輔
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第18612号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00126223

論文内容要旨

学籍番号 B5DD5041

氏名 渡辺 孝輔

永久歯の齲蝕予防は、これまでブラッシング指導を中心に行われ、それに追加してフッ化物の塗布や洗口が実施されてきた。また齲蝕の好発部位である裂溝に関しては、シーラントを用いた物理的な封鎖が行われている。近年、単なる裂溝の封鎖のみならず、材料自体からのフッ化物の徐放性や、抗菌作用を有する材料が開発され、特に永久臼歯の齲蝕予防に応用されるようになってきた。しかしこのような機能性を有するシーラント材は、セルフエッチングプライマーを用いた歯面処理により、エナメル質表面構造の損傷を低減できる利点を有する一方で、シーラントの裂溝部への維持という点では、従来のエナメルエッチングを用いた方法と比較して劣ると考えられており、シーラントを維持する為の新たな歯面処理法の開発が望まれていた。そこで本研究では、レジン系シーラントの1つである S-PRG フィラー含有シーラント（ビューティシーラント）の、新たな歯面処理剤（エナメルコンディショナー）を応用した際の臨床予後について評価を行った。

観察症例数は、従来の歯面処理（プライマー処理のみ：未処理群）を用いたものが永久歯で732歯、エナメルコンディショナーを併用したもの（エナメルコンディショナー使用群）が655歯である。最長2年間の観察期間において、シーラントの脱落率は、未処理群において5.8%、エナメルコンディショナー使用群では1.5%であった。未処理群においてはシーラント処置後6か月での脱落が最も多く11.0%であり、エナメルコンディショナー使用群では15か月が最も多く3.2%であった。脱落の種類は、いずれの群においても部分脱落よりも完全脱落が多かった。歯種別のシーラントにお完全脱落率は、未処理群においては上顎右側第一臼歯が最も多く25.8%であり、次いで上顎左側第一臼歯永久歯の24.5%であった。一方、エナメルコンディショナー使用群では、下顎左側第2大臼歯の12.5%であり、次いで下顎右側第2大臼歯の12.0%であった。またシーラント処置後のC0又は処置の必要な齲蝕（C）を呈した頻度は、2年間の観察期間中において未処理群が1.8%、エナメルコンディショナー使用群が0.9%であった。

以上の結果から、シーラント処置前にエナメルコンディショナーを併用することは、シーラントの脱落率の低下と、それに伴う齲蝕の発生予防に有効であることが示唆された。